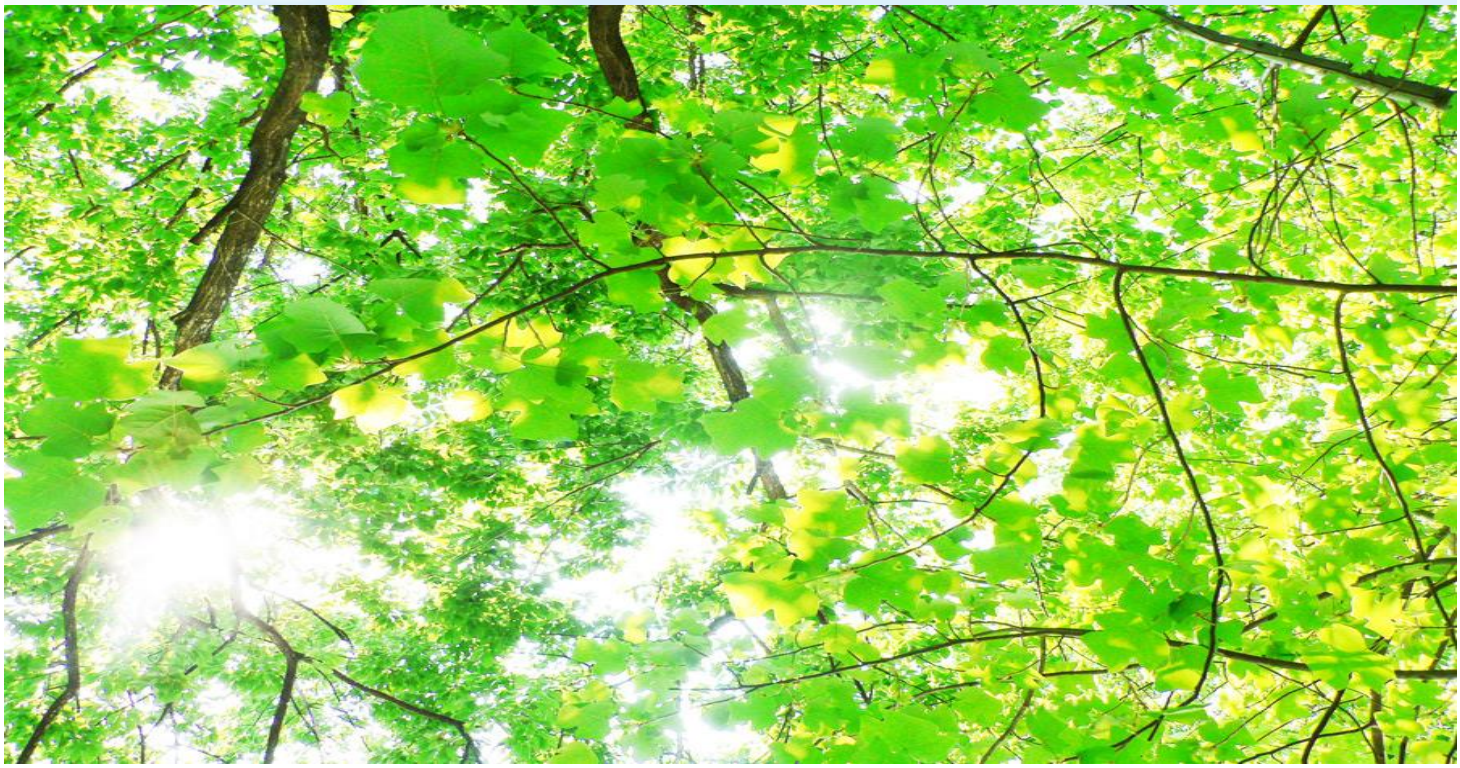
2017 年度

そばにいるだけ、
話を聴くだけ、
一緒に笑うだけ、
それでいい。

（学生団体）
「福島大学災害ボランティアセンター」

事業計画書

2017.4 月



１．活動の趣旨

「東日本大震災」から丸６年が経過しました。浪江町、富岡町、飯舘村の「帰還困難区域」を除いた地域及び川俣町の山木屋地区の避難指示がこの３月 31 日または４月１日に解除されました。復興に向けた前進もあり、引き続きの課題もあり。いずれにせよ、今年度は福島にとって新たなステージの展開を感じています。それでも、「多様なニーズ対応」が存在していることは変わりません。むしろ「分散してきたニーズ対応」という感もありあます。だからこそ、私たちがこの６年間してきたことは「継続」ではなく「連続」という言葉のもとにあるとあらためて振り返りをすることが大事だと思います。それぞれがどのような状況にあっても、「暮らし・人生・いのち」にかかわり続ける強みをその「連続性」に見出さなければなりません。

７年目を迎え住まい方も、自宅に戻る人々、復興公営住宅に住み替えた人々、仮設住宅に残る人々と、それぞれの生活があります。それらの一部を消去するのではなく、それぞれの暮らしぶりに対応して「つないでいく」という役割が私たちにあるのではないかと思います。その役割を果たすためには、昨年度から特徴づけている「人づきあい」ボランティアを大切にしていきたいと思います。「人づきあい」サポートとは自然派生的に寄り添うことかもしれませんが、生活感を取り戻そうとする帰還地区、世帯単位での暮らしぶりが基本となる復興公営住宅、それぞれの事情で暮らしを続ける仮設住宅での「人づきあい」は、各々意図した積極的なかかわり（決して大振りではなくとも）が必要なのではと思います。数年先を見越すと、「人」対「人」の関係づくりは、今に至って本番を迎えており、肝心なのではないでしょうか。私たちはこの心得を「基盤」にしていきたいと思っています。ただし、「地味に薄く」ではなく「地味に強く」で。そんな理由から、さらなる今後５年間を考えた強い基盤的活動が始まるという確かな意志を持った１年にしたいと思います。

また、震災を経験した人々との生活のお付き合いを続けてくると、そこには様々な場面があることにも気づきます。子どもたちの学びを考える場面、高齢期を迎えたからこそ健康づくりや介護予防等福祉が重要になる場面、親睦や賑わいを恋しく思う場面、新たなスタートを喜ぶ場面・・・、現実的な課題と将来を創る未来への課題とが相入れる７年目、まだまだ私たちは被災者の生活支援の側面的・内面的なサポーター、あるいはパートナーとして活動していきたいと思います。

今年度の大学１年生の多くは、震災当時小学校６年生でした。まだ子どもだった時の震災への思いが、中学・高校を経て大人として震災へ向き合う思いへと登っていけるよう、新しい仲間たちは１回・２回の活動にとどまらず、一定の時間は住民の方々とお付き合いをしてもらえるようリレーを続けたいと思います。「人」の「生活」に「連続的」に、先を見通して「地味に強く」、「生活の場所・場面」で「心の機微」にふれ、「災害ボランティアセンター」は進んでいきます。

そこに暮らす人（住民）、復興をともに進める人、企業・自治体の方々からのご支援ご助言を引き続きいただければと思います。

２．活動計画

本年度は、当面以下のような活動を計画及び企画努力とします。

① 津波・地震被災地での復興支援活動

・南相馬市ボランティア活動センターを通したニーズ対応活動

＊昨年度避難指示が解除された南相馬市小高区での帰宅に向けたお手伝い。・・・年６回程度

・新地町ビーチクリーニング（景観復興活動）・・・年４回程度

② 避難指示解除地域での生活復興支援活動およびコミュニティづくり

・南相馬市小高区児童・生徒の長期休み期間のニーズ対応活動

＊小高フリースペース（夏休み・冬休み）

※避難先ではなく、帰還した小学校での初の取り組みを協議します。

・浪江町、飯舘村でのボランティアの検討と提案

＊浪江町帰還者の健康づくりや生活支援（例：買い物支援）の検討・・・浪江町役場・社協と協力しながら模索しましょう

＊飯舘村福祉施設でのレクリエーション活動や職員サポート・・・「いいたて福祉会」と協力しながら模索しましょう

＊飯舘村の子ども交流、世代間交流等・・・飯舘村役場・教育委員会・社協と協力しながら模索しましょう

※飯舘村での活動は、福島大学との「友好協定」「実践プログラム協定」に基づく活動と位置づけるかもしれません。

・大熊町、双葉町、富岡町での実況見分

＊安全性を考慮した上で、必要と時期・状況に応じた現地活動の可能性もあります。

・双葉８町村支援やイベントの要請対応

③ 復興公営児住宅・仮設住宅（見做し仮設含む）居住者の生活支援活動およびコミュニティ作り

・高齢者等の訪問活動「井戸端訪問」・・・随時

・交流スペースを使った住民交流・コミュニケーション支援活動

＊手作業や足湯などを活用したミニサロン・・・福茶会（企画は様々なバリエーションを持たせましょう）

＊学生サークルや県外支援者等をつなげたレクリエーション

例）福大チアリーディングサークル、ジャグリングサークル　等

・住民との季節親睦活動・・・家庭的な雰囲気で小規模で行ってみましょう

＊花見　＊新緑会　＊夏祭り・夕涼み会　＊芋煮

＊バーベキュー　＊クリスマス会　＊望年会・新年会　＊餅つきなど

・各地避難者自治会と地元自治会・地元組織との交流促進活動への協力。

例）飯坂復興公営住宅居住者と地元との交流イベント　等

・他大学・団体活動の現地調整活動

【仮設住宅】笹谷東部・南矢野目・北幹線第１・宮代第１・森合・佐原・杉内・安達運動場・塩沢・郭内・岳下センター・石神第１・石神第２・恵向・桑折駅前（浪江)、松川第１・松川第２・旧松川小・飯野明治・上野台・大木戸（飯舘村）・北幹線第２（双葉)、藤田駅前（国見町)、松長公園（大熊町）仮設住宅、富岡県北地域自治会、単発的に依頼のある仮設住宅等・・・仮設住宅から移住される方も増えますが残った方との交流を続けましょう。

【復興公営住宅】飯坂、北沢又、石倉、北中央、桑折、根柄山、壁沢　等

＊今年度は、さらに復興公営住宅の入居が進みます。サロン等積極的に提案したり、仮設住宅でつくられた交友関係のつなぎ役になったり、地元住民との調和を目的にした活動に本格的に取り組みましょう。一方で仮設住宅に残る方の見守りの目も大切にしていきましょう。

④　仮設住宅拠点化生活支援活動

・「いるだけ支援」の実施。

＊今年度も引き続き「北幹線第１仮設住宅」と、「安達運動場仮設住宅」（いずれも浪江町）の２か所で展開します。住み替えが進む中で少なくなっていく住民の方の見守りを重点的に行っていきます。不特定多数から実名のわかる関係をより一層深めましょう。より積極的な井戸端訪問等の活動を進めましょう。

⑤　帰還地域でのむらづくり活動

・田村市都路地区の人交流事業（農地・古民家を活用した「学生 DASH 村」の実施）・・・田村復興応援隊と　（詳細は企画書）

＊県外学生の呼び込みと可能であれば子どもたちの呼び込み企画を検討してみましょう。

⑥　健康づくり活動

・高齢者サポート拠点での健康づくり・介護予防サポート活動

＊飯舘村「あづまっぺ」での交流サロン（年４回）

・エクササイズプログラム「JOYBEAT」を活用した体と頭の健康体操の実施

⑦　福島の風評被害軽減・産業振興サポート活動

・東京等県外での物販、福島発信活動

例）群馬県「まえばし×ふくしま部」との協働活動

⑧　次世代育成学びのサポート活動

・大分県雄城台高校の修学旅行受け入れ（11 月）

・小中学校からの講座等の要請対応

⑨　福島の子どもたちの健全な交友づくりサポート活動

・全国の子どもたちを福島に招待しての「第 5 回集まれ！ふくしま子ども大使」の開催・・・8 月（アサヒグループの支援により実施）

⑩　福島元気発信活動

・福島を伝える展示やパフォーマンス

＊「天満音楽祭」の参加・・・(関西大学調整事業)

⑪　子どもの発達・遊び支援

・各種要請対応・・・適宜

＊key's との連携協働を模索する

⑫　子どもの力支援

・「第 3 回ふくしまネイチャリングキャンプ」（8 月）

自然体験と子どもの造作活動を主とした子どもの力発掘キャンプ。

⑬　災害に関する他団体・企業との共同活動・・・事柄があれば適宜対応しましょう。

＊「関西浜通り交流会」からの要請活動

＊「アサヒホールディングス」のサロン活動

＊「目に見える支援プロジェクト in 福島」の炊き出し活動（配食活動）

＊「味の素」との料理教室　　等

⑭　災害に関する各種調査活動への協力・・・適宜

⑮　災害援助及びその活動に関する情報提供、啓発活動、報告活動・・・適宜

・各種研修会・講演会での発表

⑯　災害復興のイベント企画または協力

＊「手づくりマルシェ」など企画イベントへの協力　等

⑰　福島大学が行う災害に関する各事業への協力

・他、大学主催のシンポジウムや講演会など事柄があれば適宜協力、参加しましょう。

⑱　その他被災地・被災者のニーズに対応した活動や、センタースタッフ、登録者からの自発的提唱活動・・・適宜

３．大学内外のボランティア登録者の呼びかけと登録者のフォローアップ

・サークルオリエンテーションへの参加および新歓オリテの実施（4 月）

・新登録者向けの「災ボラステップアップツアー」の実施（浪江・飯舘村：5 月）

・五大課外活動団体フェス（5 月末）

「災ボラ」「「Key's」「スタ☆ふく」「リプラボ」「Vote プロジェクト」

・ボランティアウィークの開催（7 月）・・・「Key's」「スタ☆ふく」等と協働

・ボランティア保険申請の取次、とりまとめ

４．センター及びボランティア活動資金の調達。会計管理

①　カンパ金の呼びかけ

②　外部資金の申請

※外部資金の調達がかなわない場合、断念する活動もあります。

③　企業や NPO 法人との協同

④　寄付等の受け入れ

・企業への情報宣伝活動及び寄付金のお願いを本格的に実施します。

※物資の提供の受け入れも。

⑤　自主財源の創出

※フリーマーケット　学祭　ポロシャツ販売　等

５．外部団体との連携

①　県外学生とのネットワーク

＊関西大学、東北大学災害ボランティア支援室、石巻専修大学など

②　国外・県外大学のボランティア協働活動・要請の受け皿

③　県ボランティアセンター及び各市町村ボランティアセンター、行政との連携

④　「うつくしま未来支援センター」等学内震災関連機関との連携

６．広報活動

①情報運営管理の一層の充実

＊HP の運営管理

②英語版　Website　の管理

③Facebook　twitter　Instagram　を活用した情報発信

④学内災ボラ掲示コーナーの充実

⑤報告書・活動記録 DVD の作成

７．災害ボランティアセンター組織・運営にかかわる事柄

①学外からの運営支援体制

アンバサダーの配置

②学生ボランティアセンター「Key's」、「スタ☆ふく」等とのパートナー会議

③会計収支簿様式の改善

８．大学学長との懇談

下線＿＿＿＿は新規または発展